

道徳学習指導案

指導者 広島市立〇〇中学校
教諭 〇 〇 〇 〇

- 1 日 時 平成20年9月〇日 (〇)
- 2 学 年 第1学年〇組
- 3 主題名 生命の尊さ〔内容項目3－(2)〕
- 4 資料名 「今日のニュース」(自作読み物資料)

5 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値

さまざまな少年問題が報じられるたびに、中学生の「生命」に対する畏敬の念の希薄さとともに、「死」に対する畏れのなさもクローズアップされる。中学生だけでなく現代社会に生きる私たちは、快適で平穏無事な生活を求め続ける中で、「生命」や「生きる」ことを自覚する経験が少なくなっているのではないかと考える。

そこで、中学校の道徳の時間に、身近な人の死に直面するような場面を設定することを通して、「生」と「死」とを見つめさせ、「生命」の尊さや「生きる」ことの意味について問い続けさせたいと考え、本主題を設定した。

(2) 生徒観

落ち着いた日常生活を過ごし、行動する前に立ち止まって考えることができる。感受性が豊かで、それを表現する語彙も豊富であり、日常の活動としている「日記」の内容からも、彼らの観察力や感じる力を見取ることができる。学級の活動の中で、道徳的価値について考える際にも、ほとんどの生徒は熱心に取り組んでいる。ただ、実際の体験を手がかりとして道徳的価値について考えを深める機会は少ない。そこで、特に「道徳の時間」には、さまざまな道徳的価値(生命の尊重など)について、いろいろな視点から自覚を深めさせたいと考えている。

(3) 教材観

読み物資料(自作)の主人公「僕」は、「死」に対して鈍感であったが、自分の身近な人の死に直面し、ひとりの「人の死」には、その人に連なる多くの人の悲しみが連なっていることを思い知る。最近世の中を騒がせている「人間を物のように扱って殺す」という事件は特殊な例かもしれないが、ニュースなどで伝えられる「死」は、ひとりの人間が消えたという感覚でしか受けとめられないのも事実である。しかし、ひとりの人間が死ぬということは、その人の積み重ねてきた歴史が消えることである。また、周囲の人にとっては、たった今まで「家族」「友達」であったその人が、いきなり奪われてしまうことでもある。

主人公の気持ちの変化を通して、「あらゆる人の、大切なたった一度の人生が複雑にからみあい、かけがえのない関係が築かれている」という生命の連続性、偶然性、有限性に気づかせたいと考えて、この教材を作った。特に学習指導過程の終末部では、自分と周囲の友達、家族等との関係に立ち返って考えられるように工夫した。

- 6 ねらい 生命の尊さ(連続性など)を理解し、かけがえのない自他の生命を尊重しようとする心情を育てる。

- 7 資料名 「今日のニュース」(自作の読み物資料)

- 8 準備物 学習プリント「今日のニュース」(第一部、第二部)、青・赤・黄の三色カード

9 学習指導過程

| 主な学習内容と 予想される生徒の感じ方・考え方 | 道徳的価値の自覚を深めるための 教師の働きかけ ☆ 評価の観点 |
|--|---|
| 【導入】10分 ○資料「今日のニュース」の最初の部分に感情移入する。 発問① 家では、兄弟けんかなどの時、どんな感じになりますか。何を言いますか。 ・なぐり合い ・悪口の言い合い ・自分ばかり親に怒られる | ○読み物資料の最初の部分に感情移入させるために、けんかのときなど、自分がどのような言葉を相手に使っているかを思い出させる。 |

進行② 今日読む話も、主人公の兄弟ゲンカのところから始まるので、自分のことと比べて考えてみましょう。

○教材に興味を持たせる。

【展開】 25分

○資料「今日のニュース」の第一部を読み、主人公の心情にそって考える。

○プリントの1枚目だけを配る。

○最初から「せいせいする」までを読む。考える場面が多いので範読する。

発問③ プrintの①と②の問いについて、自分が当てはまるものに○をしてみましょう。(生徒が○をし終わったら)まず①について、Aを選んだ人は赤のカード、Bを選んだ人は黄のカード、Cを選んだ人は青のカードを一斉に上げてみましょう。(②も同様に)

○三色のカードを同時に上げさせることで自分が「当然だ」と思っていることでも、違う考えの人がいるのだということに気付かせる。

○たとえ自分と違う色を上げた生徒が少数でも「まさかそんな考えをする人がいるとは！」という驚きを大切に、次の発言につなげる。

発問④ 赤や黄を上げた人は、なぜ「死ね」と言ったりするのでしょうか。逆に青を上げた人は、なぜ言わないのでしょうか。

- ・一番ひどい言葉が「死ね」だから、相手に勝つために言う。
- ・あまりにもひどい言葉だから言わない。
- ・親や小学校の先生に怒られたから言わない

○赤や黄を上げた生徒は、相手を強く攻撃しようとして「死ね」という言葉を使ったと考えられる。青を上げた生徒は、あまりにもひどい言葉を使わないようにしているという場合もあるだろうし、少なからず「本当に死んだら？」という問いが自身の中にあると考えられる。

○「死ね」という言葉がすぐに浮かんたり、口をついて出たりするかどうかによって、人の命についてどれくらい大切に思っているかどうかを見取ることができる。

進行⑤ 1枚目(第一部)の最後まで読んでみましょう。

発問⑥ みんなの覚えている中で「多くの人が亡くなって驚いた」というニュースといえば、どんなものがありますか。

- ・四川大地震 ・航空機の墜落
- ・列車の脱線事故
- ・インドネシアを襲った津波 など

○挙手発表か、もしくは指名して聞き、学習プリントに書き込ませる。

発問⑦ もしあなたが、この北海道のニュースをテレビで見たら、どういうふうに感じると思えますか。当てはまるものに○をしましょう。(生徒が書き込んだら)Aの人は青、Bの人は赤、Cの人は黄を上げてください。

○赤の生徒が多いと思われる。これが二十人でなく、何千人であっても、死を自分に関係のない遠くのものとして考える限り、感じ方は一緒であるということを確認する。

○資料「今日のニュース」の第二部を読み、主人公の心情にそって考える。

○2枚目(今日のニュース 第二部)を配る。

進行⑧ 2枚目の「はずだった」までを読んでみましょう。

発問⑨(中心発問) 「この交通事故で、僕より悲しい人、困る人」は誰でしょう。考えられるだけ挙げてみましょう。また、それはなぜでしょう？

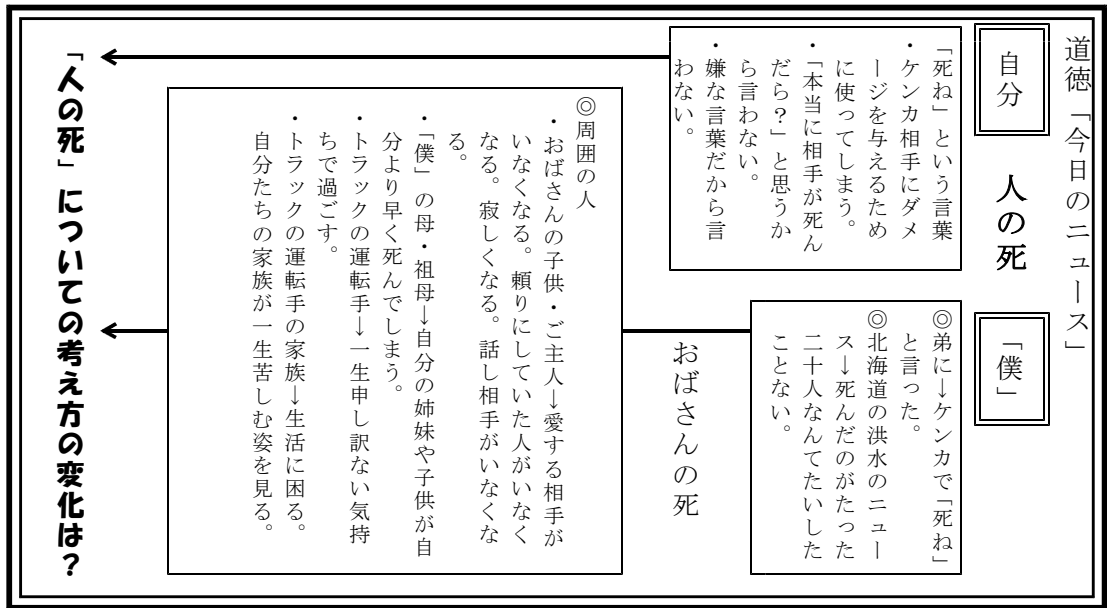
4人グループで話し合ってみましょう。

- ・おばさんの子ども ・おばさんの夫
- ・「僕」のお母さんやおばあちゃん(おばさ

○4人グループを作り、話し合わせる。その後、発表させて、まず人の名前を教師が板書していく。その後、その理由を黒板に出て書かせる。

| | |
|---|---|
| <p>んとは姉妹・親子のはず) ・おばさんの友達 ・トラックの運転手 ・トラックの運転手の家族 ほか</p> | <p>○ひとりの人の死を、どれだけ多くの人が悲しむかを考えさせることによって、生命の連続性、有限性、偶然性を理解させたい。</p> <p>○「僕は、先日の」～最後までを範読する。</p> |
| <p>【終末】 15分</p> <p>○資料「今日のニュース」の主人公の心情の変化をさぐりながら、自分自身の「人の死」に対する考え方をさぐる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>発問⑩ 「僕」の「人の死」に対する考え方で、一番変わったのはどういうことでしょうか。プリントに書いてみましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・今までは「死ね」と言ったりして、「人の死」を軽く扱っていたけど、本当に身近な人が亡くなって「死ぬ」という言葉が重いことがわかった。 ・誰かが死んだら、悲しむ人が大勢いることがわかったから、ニュースを見て「たいしたことない」とか思わなくなった。 | <p>○教師自身が、この資料を読んで考えたことや、自分自身「死」について考えていることを語って補足すると、さらに道徳的価値の内化が深まると考えられる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>☆「僕」の気持ちの変化という形を借りて、学習プリントへの書き込みと、発言とによって、生徒自身の考えの変化を見取る。</p> </div> <p>○「人の死」と「生命」について、今後実際の生活の中で考え続けさせたいので、ここでは、敢えて「あなたの気持ち・考えはどう変わったか」と発問しない。</p> |

10 板書計画



11 評価について

生徒がどのように道徳的価値を自覚し、どのように深めたかに着目して評価を行う。この教材では、主人公の気持ちの変化を通して、「人の死」に対する考え方が変わったか、生命の連続性、偶然性、有限性に気づいたかがポイントになる。

本時の評価は、まず、発言などを観察することによって行い、次のような観点で見取る。

- ・積極的に発言しようとしているか。発言内容はどうか。
 - ・自分自身は発言できなくても、他の人の発言を注意深く聞こうとしているか。
 - ・話し合いの時に、自分の思いを伝え、人の意見を聞いて自分の考えを成長させようとしているか。
 - ・新しい発見があった時の表情はどうか。

さらに、発問⑩に対する記述内容によって、生徒の道徳性の高まりを評価する。